

「戦争法廃止」人口の3割超

広げよう 2000万署名

北海道釧路市桜ヶ岡支部

雪の日も、風の日も。北海道釧路市の日本共産党桜ヶ岡支部は、毎日ように戦争法廃止の2000万署名を呼びかけ、1日までに人口の3割を超す2270人から集めました。

(伊藤幸)



スーパー前で宣伝し、署名を呼びかける桜ヶ岡支部のメンバーと工藤正志市議（左から2人目） 北海道釧路市

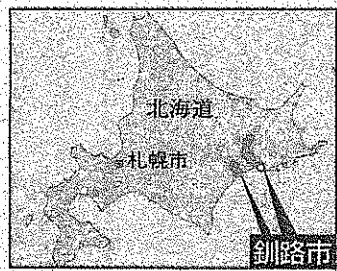
桜ヶ岡地域は市の南東部。太平洋に臨み、かつて炭鉱城下町として栄えました。

1月下旬、スーパー前で、支部のメンバーと工藤正志市議が署名への協力を訴えました。

買い物に来ていた畑山いずみさん(33)は、昼とはいえ氷点下4・5度の気温のなか、3歳の娘に「待っててね」と声をかけてペンをとりました。「この子たちが大きくなったらどうなっちゃうのかなと思って。戦争法はダメです、廃止したい」と語りました。

●目標数クリア

支部は昨年10月、2000の署名目標を決めました。参院選の得票目標



雪の日も風の日も…集めた成果

の2倍です。「一気にダッシュしよう」と900世帯ほどの後援会員に働きかけました。20人ほどの支部員が同級生や親せき、家に来た乳酸菌飲料の販売員にも署名を訴えています。地域の軒並み訪問では、初めて会う人も多くが署名しました。

創価学会員の男性(63)は、「安倍さんは戦争に引っ張っていくようなことばかりしているじゃないか。公明党も自民党と組んでやるのはよくないね」と署名しました。公明党を支持するのをやめると夫婦で協力した創価学会員もいました。

支部のメンバーはそれぞれ思いを込めて署名を訴えています。

棟方和子さん(86)は、町内会や合唱サークルの仲間30人から署名を集めました。「私は戦後、混乱のなか中国からひきあげ、大変な思いをした。終戦前に父が亡くなり、母は3人の子どもを養うのにどんなに苦労したか。戦争だけは絶対にダメ」と語ります。

●頑張るメンバー

「この署名は、戦争法廃止の署名であり、野党共闘を実現する『票』の署名です」と語る工藤一夫支部長(76)は、毎日のように20軒、30軒と歩き、署名活動の先頭に立っています。「安倍政権を倒して戦争法廃止の『国民連合政府』を実現できるかどうか、今、そういう所にきている。引き続きがんばりたい」と話します。